

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：32658

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K15337

研究課題名（和文）農産物直売所の空間的競争が直売所運営・出荷行動・6次産業化に与えるインパクト評価

研究課題名（英文）Evaluation of the Impact of Spatial Competition among Farmer's Markets on Those Operation, Shipping Behavior, and 6th Industrialization

研究代表者

菊島 良介 (Kikushima, Ryosuke)

東京農業大学・国際食料情報学部・助教

研究者番号：70757129

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：農産物直売所の空間的競争に関して、先行研究で危惧されるような過度の競争は現状認められず、外部経済効果に導かれて集積していることが示唆された。農産物直売所の運営に関して運営者は、直売所の増加を懸念しているけれども、直接の競争戦略を意識せず、まずは直売所内の生産・品質管理の重要性を説いていた。新規出荷者の獲得やサービス拡充を図りつつも、既存の出荷者や消費者が離れないようにうまく舵取りすることが重要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究で明らかにされてこなかった農産物直売所の空間的競争、直売所の持続的な運営・制度設計について新たな知見を見出すことができた。農産物直売所への出荷を通じて、生産者が消費者のリアルな反応・変化を感じることができるため、食生活の変化や地域の実情を踏まえた、より高い価値の農産物を提供するための創意工夫を促し、品質向上等を通じて競争力強化を誘発される。農産物直売所の持続的な運営・制度設計に寄与するような実証的根拠を提供したという点で社会的な意義を有している。

研究成果の概要（英文）：Regarding the spatial competition among farmer's markets, the results suggest that excessive competition, as feared in previous studies, is not currently observed, and that the concentration is guided by external economic effects.

Regarding the operation of farmer's markets, the operators were concerned about the increase in the number of direct sales outlets, but they were not conscious of direct competitive strategies, and first of all, they stressed the importance of production and quality control within the farmer's markets. It was suggested that it is important to steer well so that existing shippers and consumers do not leave, while trying to attract new shippers and expand services.

研究分野：農業経済学

キーワード：農産物直売所 持続的な運営 空間的競争 出荷者行動

1. 研究開始当初の背景

農業所得が継続的に減少する中、農業の持続的発展の方策の一つとして、農業の6次産業化を通じた所得増大が謳われている。基本計画においては、農業の6次産業化を通じた所得増大のため「食生活の変化や地域の実情、品目ごとの特性を踏まえ、農産物の品質向上、加工や直接販売等による付加価値の向上やブランド化の推進等による販売価格の向上を図る」とされている。直売所は、農業の6次産業化を通じた所得増大の核を担うことが期待される。なぜならば、生産者が消費者のリアルな反応・変化を感じることができると、食生活の変化や地域の実情を踏まえた、より高い価値の農産物を提供するための創意工夫を促し、品質向上等を通じて競争力強化を誘発するからである。しかしながら、この点は先行研究において定量的に実証されていない。直売所設置数が増加する状況の下で、地域農業を支える直売所の持続的な運営がなされる必要があり、競争の状況、出荷者間の競争意識などの出荷者の意欲を考慮した農産物調達方法・運営者のマネジメントが求められる。

2. 研究の目的

本課題は、農業の6次産業化を通じた所得増大の核を担い得る農産物直売所（以下、直売所）が小売であるため、その空間的競争が懸念され、それに応じた持続的な運営のために適切な制度設計が求められていることに焦点をあて、(1)直売所間競争が直売所に与える影響評価(2)直売所間競争が出荷者に与える影響評価(3)直売所間競争とそれに対応した直売所内のマネジメント・農業の6次産業化を通じた所得増大との関係(4)直売所の出荷規定要因の分析を行うものである。これらの成果により、直売所の空間的競争に対する理解の深化と同時に、直売所の持続的な運営・制度設計、農業の6次産業化を通じた所得増大に果たす直売所の役割について新たな知見を得ることを目指した。

3. 研究の方法

第1の課題である直売所間競争が直売所に与える影響評価については、まず、外部性を踏まえた立地傾向を周辺直売所との競合関係を定量的に評価するモデルを適用して把握する。続いて、立地傾向と関連した空間的集中度を把握する。そして、空間的集中度と販売金額の関係を回帰分析によって明らかにする。

第2・3の課題に関しては、現地でのヒアリング調査およびアンケート分析を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で研究計画の変更を行った。

第4の課題である直売所の出荷規定要因については、生産者は直売所のどのような要素に期待や不安を感じ、直売所への出荷の意思決定を行っているかを定量的に把握する。まず、直売所設立前に選択実験を実施し、直売所設立後に実際に出荷したか否かで、直売所が提供するサービスに対する支払い意思額に違いがみられるかを検証する。サービスの価格ではなく、直売所の手数料率によってサービスの価値を換算し評価を行う。次に、直売所設立後にヒアリング調査を実施し実態を把握することで、選択実験のデータ分析では掬いきれない、非農家を含めた直売所へのニーズを把握する。

4. 研究成果

第1の課題である直売所間競争が直売所に与える影響評価、第2の課題である直売所間競争が出荷者に与える影響評価、第3の課題である直売所間競争とそれに対応した直売所内のマネジメント・農業の6次産業化を通じた所得増大との関係から得られた成果は以下の通りである。

先行研究で危惧されるような過度の競争は現状認められず、外部経済効果に導かれて集積していることが示唆された。また運営者は、直売所の増加を懸念しているけれども、直接の競争戦略を意識せず、まずは直売所内の生産・品質管理の重要性を説いていた。持続的な運営・制度設計として品質に対する高い意識を醸成させる方策は、直売所の販売額や収益率の増大・安定につながっていることがうかがわれた。千葉県直売所への運営者へのヒアリングから、直売所数が多い千葉県では出荷者が直売所を選択している実態が観察された。直売所間の競争を意識したマネジメントが求められていることが示唆された。研究成果は *Japanese Journal of Agricultural Economics* に掲載された。また、研究成果を研究者以外の方でも読みやすいように取りまとめたものが『アグリバイオ』に掲載された。第2、第3の課題に関しては静岡県・現地調査が困難であったことから、第4の課題を優先的に進めた。

第4の課題である直売所の出荷規定要因の研究成果の概略は以下の通りである。

非出荷者であっても出荷のフレキシビリティ志向が強い人は、売れ残り商品の買い取りに魅力を感じていた。直売所が出荷者に提供するサービスは出荷者から高い評価をうけていた。新規出荷者の獲得やサービス拡充を図りつつも、既存の出荷者や消費者が離れないようにうまく舵取りすることが求められる。研究成果は日本農業経済学会で報告を行った。定量分析と実態調査を組み合わせることで出荷者募集の際に「営農・技術指導がある」という情報の持つ意味を多面

的に検討でき、その有効性と時として直売所の出荷を見合わせる要因となってしまう恐れが示唆された。端境期に重要な役割を果たす零細農家に直売所への出荷を促すには、心理的な課題を拭う工夫も求められることが示唆された。その研究成果は『農業経営研究』（日本農業経営学会）の研究論文（査読付）として掲載された。

新型コロナウイルスの影響で、研究計画の変更があったが、第1および4の課題の研究成果は査読付論文として公表され、部分的ではあるが第2の課題についても次の研究につながる示唆が得られた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 菊島良介, 鳥山大地, 吉信慎人, 松井隆宏	4. 巻 59(1)
2. 論文標題 農産物直売所への出荷規定要因：非出荷者も対象とした直売所設立事前・事後アンケートの分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11300/fmsj.59.1_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikushima Ryosuke	4. 巻 21
2. 論文標題 Spatial Competition Among Farmer 's Markets	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18480/jjae.21.0_20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊島良介	4. 巻 2(13)
2. 論文標題 農産物直売所の持続的展開に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アグリバイオ	6. 最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 菊島 良介・鳥山 大地・吉信 慎人・松井 隆宏
2. 発表標題 農産物直売所への出荷規定要因 農産物直売所設立事前・事後調査による非出荷者も対象とした潜在ニーズの抽出
3. 学会等名 日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

東京農業大学ホームページ・研究室紹介・研究者詳細
<http://dbs.nodai.ac.jp/view?l=ja&u=100001370>
research Map
https://researchmap.jp/ryosuke_kikushima
農林水産政策研究所 研究員紹介 菊島良介
http://www.maff.go.jp/primaff/about/kenkyuin/kikusima_ryosuke.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------